

平成28年度 校内研究計画

紫雲寺小学校研究推進委員会

1 研究主題

「学びの筋道が分かる授業の実現(3年次)」
～学力向上につながる『関わり合い』のある授業を求めて～
【新発田市授業スタンダードとUDLの視点を意識した授業改善】

2 研究主題の設定理由

(1) 教育目標から

学校生活の大部分を占める授業は、児童の成長に大きな影響を与える。分かる喜びや学ぶ意義を実感できる授業では、児童は「関わり合い(学び合い)」を通し、「知識・技能」、「表現力・思考力・判断力」といった能力を獲得したり、自己及び他者を理解し、自己有能感を感じたり、さらには様々な活動に対する意欲や望ましい態度などを育てていったりできる。

本校の教育目標は「ともにのびよう」である。児童が「できる・分かる」喜びを味わったり、友だちとの「関わり合い(学び合い)」に充実感を感じたりする授業づくりを工夫することは、教育目標の具現にとって不可欠なことである。また、今年度の知育の重点目標は「疑問やめあてをもち、仲間とともに考えることのおもしろさを味わいながら学力を伸ばす子」である。今年度は、昨年度までの授業のユニバーサルデザイン化を中心とした研究の成果を生かしながら、「新発田市授業スタンダード」を踏まえた授業づくりを展開するために、本主題を上記のように設定した。

(2) 子どもの実態から

本校は、明るく人なつっこい児童が多い。物事に根気強く取り組もうとする姿勢に欠けたり、学習に進んで取り組もうとする意欲に乏しかったりする児童も少なくないが、学校全体として落ち着いた雰囲気の中で学習が進められるようになってきている。

昨年度のNRT、CRT、全国学力学習状況調査、Web配信集計システム等の結果を分析すると、知識・技能の定着や、思考力・表現力の弱さなど学力に関する様々な課題があった。しかし、昨年度からの学力向上のための「関わり合い」やUDLを重視した授業改善等により、今年度のNRTの結果は、どの学年も国語、算数共に向上し、学校全体では全国平均を上回ることができた。

また、紫雲寺地区の小・中学校で統一した「学習3原則」や「家庭学習強調週間」を設定して取り組んできたことで、「授業の準備」や「タイム着席」等の学習規律は改善し、児童の家庭学習の習慣化も高まってきている。

そういった児童の学習意欲を一層高め、更なる学力の向上を図るために、「チーム紫雲寺」として、全校体制で「できる・分かる」授業づくりを目指していく。

(3) 昨年度までの成果と課題から

昨年度は、「ねらい」「課題設定」「学習活動」「まとめ」などの授業サイクルをベースにした学習過程の構成と、学びの筋道が分かる構造的な板書の工夫を継続して研究した。児童が他の子と関わり合う場を、授業の流れの中での様々な場面で取り入れ、

自分の考えと友だちの考えの違いに気付いたり、自分の考えをより深めたりする効果的な場面を模索した。昨年度の成果は以下の3点である。「①教科書の課題を吟味し、子どもたちにとって身近な状況設定にすることで学習意欲が向上した。」「②関わり合いは子どもたちが相談する必要感を感じる場面で設定するとより学習が深まった。」「③学習環境のUDL化は学習の見通しをもつことができるとともに、落ち着いて学習に取り組む意識や姿勢をそだてるのに有効だった。」課題は、日々の授業をより大切にしていくための教材研究の充実と授業準備である。

そこで今年度は、新発田市授業スタンダードを踏まえた授業改善・授業改革を図る。学力向上につながる「関わり合い」のある授業づくりに向けて、魅力ある課題づくり、「関わり合い」のコーディネート（自他のずれの活用等）、まとめの言語化と確かなみとり等の工夫を図る。また、視覚支援を中心とする授業のUDL化を継続し（「学習のめあてとまとめ」「構造的な板書」「振り返り」）、学習環境の整備を含め、分かりやすい授業づくりを進める。

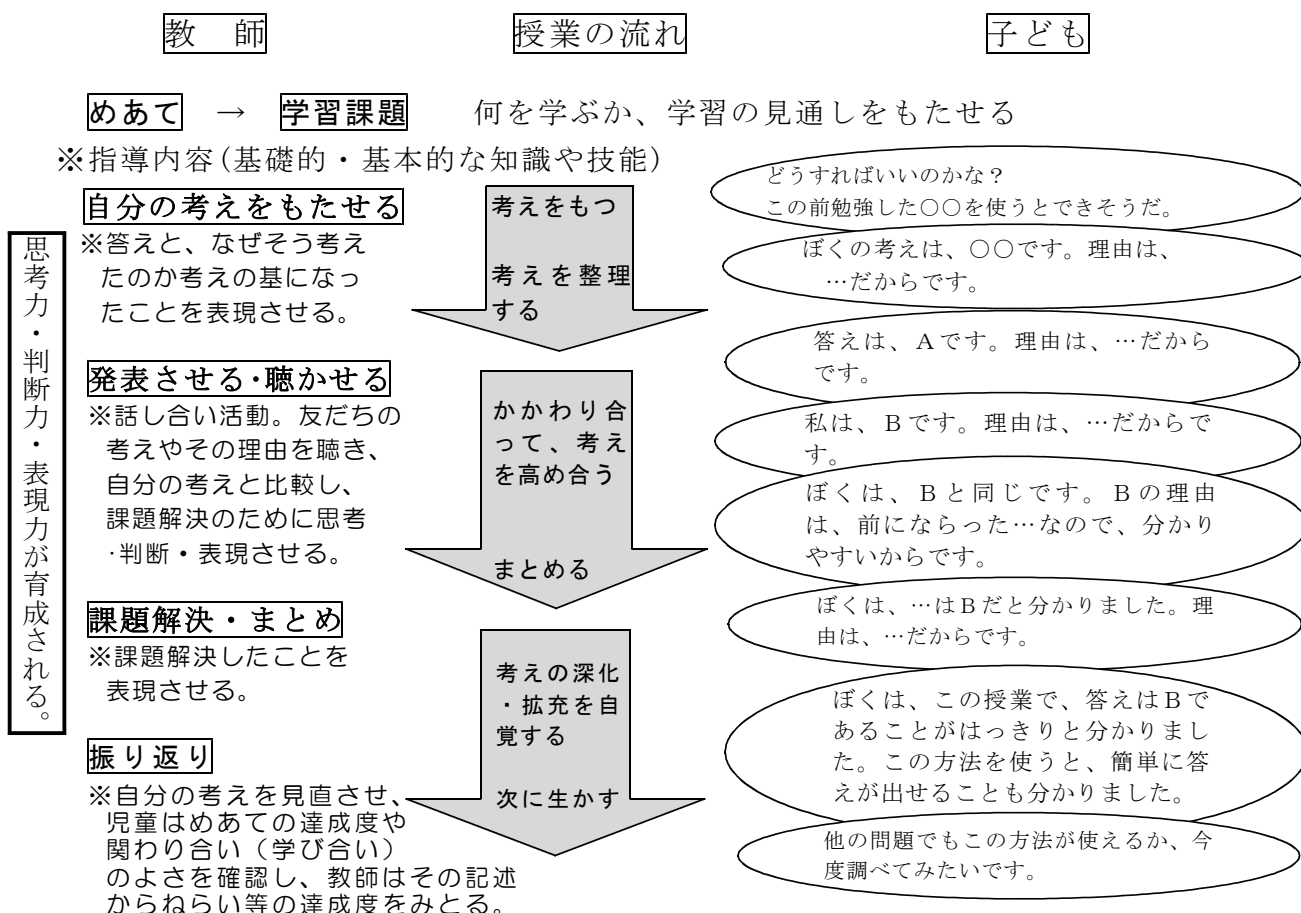
3 研究内容

(1) 新発田市授業スタンダードを踏まえた授業改善

「新発田市授業スタンダード」による学習過程と、紫雲寺小でベースとする学習過程の文言は違うところがある。しかし、次のような学習過程をベースにしながら、児童の実態や学習内容に応じた工夫を盛り込んでいくことは、昨年度と同様である。

◎学習過程

- ①子どもが解決の意欲と見通しがもてるような課題提示
- ②自他の考えのずれを活用するような関わり合い
- ③まとめを言語化して表現させる場
- ④自分の考えを振り返らせ、達成度をみとる場



思考力・判断力・表現力が育成される。

(2) UDLの視点を取り入れた分かりやすい授業づくり

視覚支援（焦点化、可視化、視覚化、動作化等）を中心にUDLの視点を取り入れた分かりやすい授業づくりを進める。

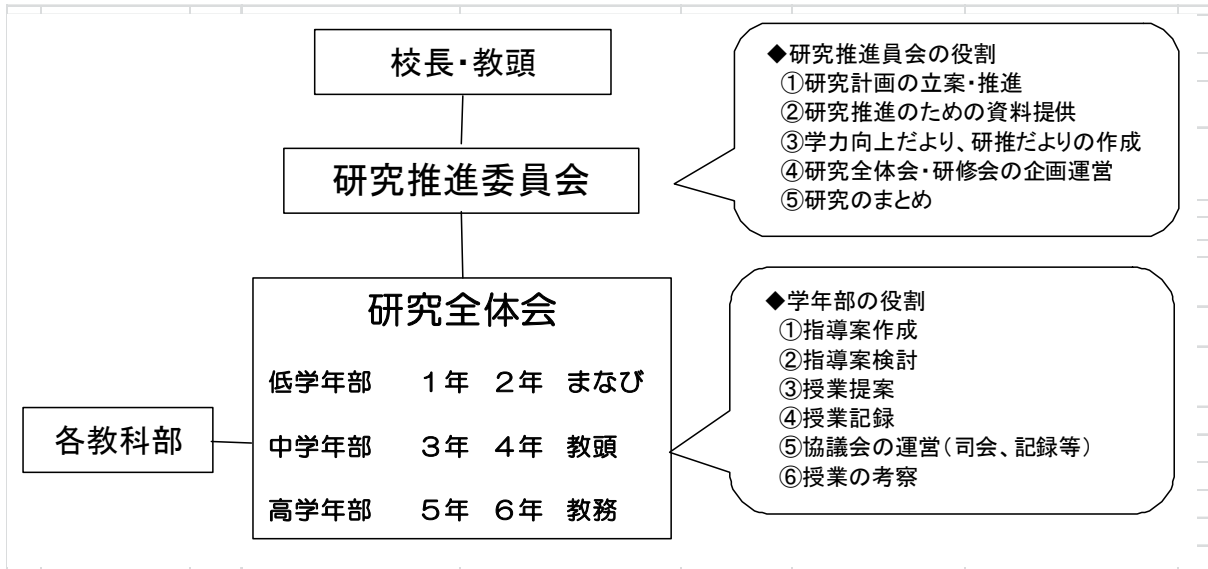
◎ (1) と (2) を踏まえ、研究授業では、以下の項目の中から取り上げたい授業改善の視点をいくつか選んで単元や本時を構想し、授業公開する。

新発田市授業スタンダードと関連付けた授業改善・授業改革の視点（教育計画P9より）

- ア ねらい（指導目標）の明確化・焦点化
- イ ねらい達成につながり、児童が解決意欲をもつ魅力的な学習課題（めあて）の設定
- ウ 自他のずれを生かした、学び合い（関わり合い）のコーディネート
- エ 学習課題（めあて）に整合・正対したまとめの言語化（表現すること）
- オ まとめを生かして類題等に取り組ませ、習熟を図ること
- カ 自らの学びや学び合いの成果と課題を自覚し、今後の方向性を見据える振り返り
※構造的な板書と様々な場面での視覚的な支援（視覚化・可視化・動作化）
- キ 家庭学習につながる、練習問題や発展課題等の提示…家庭学習への誘い
- ク 振り返りの記述内容や類題の出来具合からの素早く確かなみとり…指導後（評価時）

(3) 研究の進め方

- ① 低・中・高学年部単位の研究組織とし、学年部計画等の立案や授業実践を行う。
- ② 研究推進組織



(4) 研究授業について

全学級で、最低年1回の授業提案を行い、全員で参観・協議会をもつ。

① 市教委訪問、外部講師を招いての研究授業

- ・指導案の検討は、学年部で行った後、全体検討会を持つ。
- ・参観ならびに協議会は、全員参加とする。

② 上記以外の研究授業

- ・指導案検討会は、学年部＋研推委員で行う。参観ならびに協議会は、全員参加とする。
- ・級外も、可能な限り研究主題に沿った内容で授業提案をお願いしたい。その場合の参観は任意とし、全体協議会は行わない。(参観者は、感想等を参観記録カードに記入し授業者へ渡す。)

(5) 研究教科について

- ・教科は国語または算数とする。

(6) 研究のまとめについて

- ・授業者は、研究内容に沿った授業の考察を行い、成果と課題を明らかにする。
- ・研究推進委員会は考察をとりまとめる。

(7) 研究の年間予定

4月	研究推進部会会	
5月	研究全体会（全体計画の共通理解）	
6月	研究授業 4年 研究の授業提案	
7月	研究授業 年	
8月	NRTの学級分析	
9月	研究授業 年	
10月	研究授業 5年 市教委計画訪問	10月7日
11月	研究授業 年	
12月	研究授業 年	
1月	研究のまとめ作成	
2月	研究のまとめ完成	
3月	次年度の方向性の検討、次年度案の作成	

